説教余滴 2019 年 11 月 10 日、「晩秋初冬」

今年 11 月 8 日は、立冬でした。暦の上では冬の到来です。これは東洋暦。西洋の暦では、
秋の始まりは秋分の日・9 月 23 日です。初めがあれば終わりがある。秋の終わりは、冬至・12 月 22 日、このときまで秋は続きます。立冬はこの中間になります。
数日前から、北海道では降雪と報じられています。写真も動画もありませんでした。当たり前のこと過ぎてニュースヴァリューがない、との判断でしょう。
ある年には、例外的ですが、12 月に初雪、そのまま根雪となることもありました。ナナカマドの赤い実の上に白い雪が載ったさまは実に美しい。全国へその画像を送りたい。見てほしい。でもそのときの冷たくて、凛とした空気は伝わらないかな。路面が凍っていて滑りそう、と言う恐怖感は、実際に両足を高く上げて尻餅をついた人間でないと、分からないでしょうね。

「秋」の心は、「飽き」。収穫の季節となり、諸国万民が満腹することを意味しました。

「男心と秋の空」、よく聞きました。本当かな、「女心じゃないの？」
どちらもあるようです。「秋の空」は「飽きの空」で、男の移り気を言い表したもの、と言います。女心も変わります。「女心は猫の目」、「女心と秋の空、変わりますぞ日に三度」と言われます。倉嶋厚さんは、こんな説を紹介しています。

秋の空はやはり男心だが、その代わり、女心は春の空だ、というのです。男心は変わりながらも結局冷えますが、女心は変わりながら、次第に、どうしようもなく燃え上がってしまう。　　いかがでしょうか、秋の夜長の論題となるでしょうか。

秋の心と書けば、愁い・うれい、となります。「一葉落ちて天下の秋を知る」 歯中国の古典『淮南子』から。英語で「彼は彼の秋に辿り着いた」と言えば、「絞首刑を受ける事になっている」と言う意味だそうです。人生を考え、その終わりを全うする道を見出す時です。